

令和5年度 JAQG サプライチェーン マネジメントハンドブック説明会について

1. はじめに

JAQG (Japanese Aerospace Quality Group) は、世界の航空宇宙業界における品質活動をリードするIAQG (International Aerospace Quality Group) に対応した国内組織として、4社のIAQGメンバー企業 (株式会社 IHI、三菱重工業、川崎重工業、株式会社 富士重工業) を中核として、2001年当工業会 (SJAC) 内に設置された。JAQGの主な活動は、航空宇宙分野の品質マネジメントシステム規格である9100規格 (汎用的な品質マネジメントの国際規格ISO9001に航空宇宙業界特有の要求事項を追加したもので、日本ではJIS Q 9100 : 2016年版規格として発行されている) の制定 / 普及、JIS Q 9100認証制度の運用と監視、品質保証に関するガイダンス・ベストプラクティスを提供することである。

JAQG設立当初79社であったメンバー企業数も、現在では500社を超え、活発に活動を展開している。

本報告は、令和5年12月にJAQGメンバーに向けて、対面、及びオンラインでのハイブリッドで開催した令和5年度JAQGサプライチェーンマネジメントハンドブック説明会の概要を紹介するものである。

2. サプライチェーンマネジメントハンドブックとは

サプライチェーンマネジメントハンドブック (SCMH : Supply Chain Management Handbook) は、IAQGが中心となって作成・維持している、サプライチェーン全体に向けた体系化されたガイダンス / トレーニング資料 / ベストプラクティスをまとめた文書である。

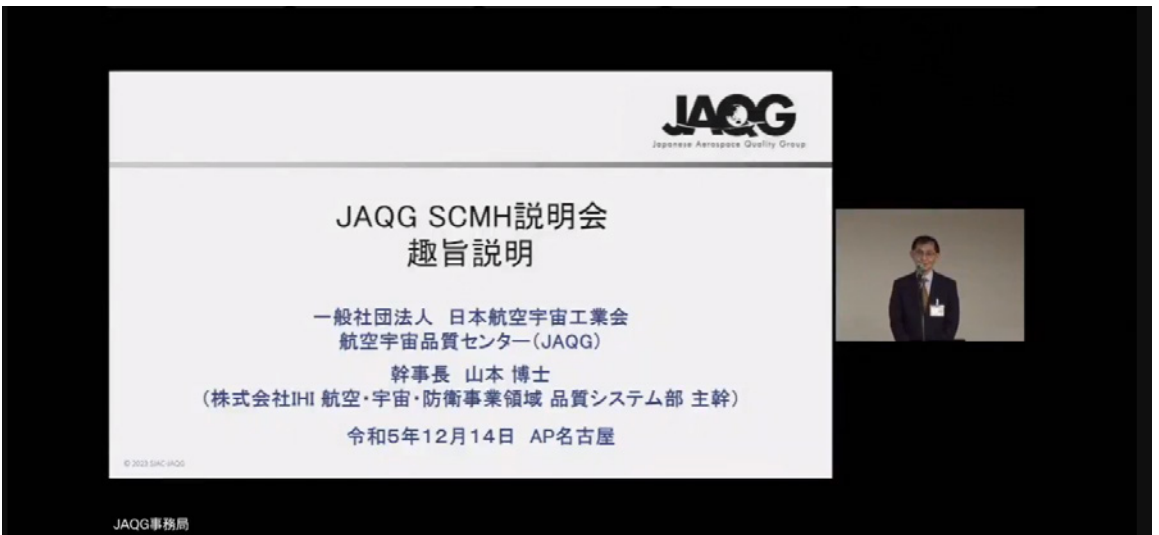
JAQGはSCMH開発に参画するとともに、その和訳版を作成し、組織の品質管理活動 (QMS : Quality Management System) 向上に必要なベストプラクティスをJAQGメンバーに提供している。

3. SCMH説明会実施状況

新型コロナが2類から5類に移行し、かつての日常が取戻されつつあるなか、12月14日に対面、及びオンラインでのハイブリッドで開催し、JAQGメンバー企業から138名 (名古屋会場への直接参加者18名) の参加を頂き、以下の要領で実施した。



会場の様子



オンラインでの配信

(1) 挨拶及び趣旨説明 (JAQG 幹事長
山本 博士 (株式会社 IHI))

今回のSCMH説明会は、令和4年のSCMH説明会アンケートで要望が多かったトップ2のテーマを、これもJAQGメンバーからの要望が多かった“具体事例”を用いて説明することが紹介された。

「SCMH 3.5項 模倣品の防止」については平成30年及び令和3年に続いての説明であり、

又「SCMH 3.3項 不適合製品の管理」については久々のまとまった説明になることを紹介した。

SCMHは英語で公開されているが、「日本語翻訳版の利用はJAQGメンバーの特権であり、活発な質疑を通じて実り多い『お持ち帰り』をしていただくことを期待する」との挨拶が行われた。



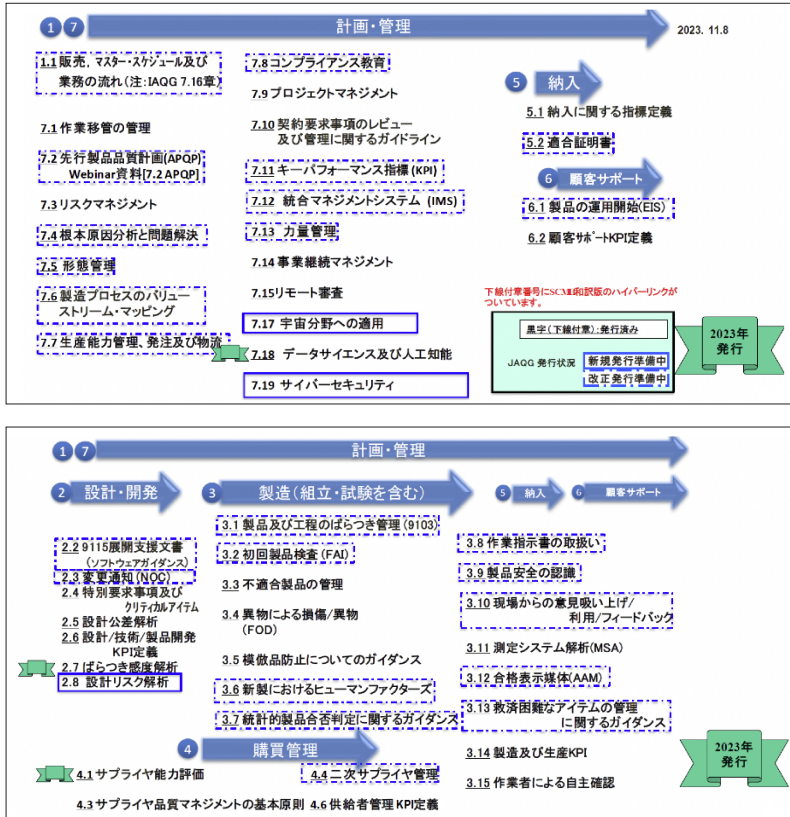
山本 JAQG幹事長 (株式会社 IHI)

(2) SCMH WG活動説明

(佐藤 浩光 SCMH WG 主査
(株式会社 IHI))

・SCMH和訳版の公開状況、SCMH和訳版へ

のアクセス方法、JAQGが独自に作成したガイダンス文書・ハンドブック等の紹介が行われた。



SCMH 発行状況 (JAQG和訳版)



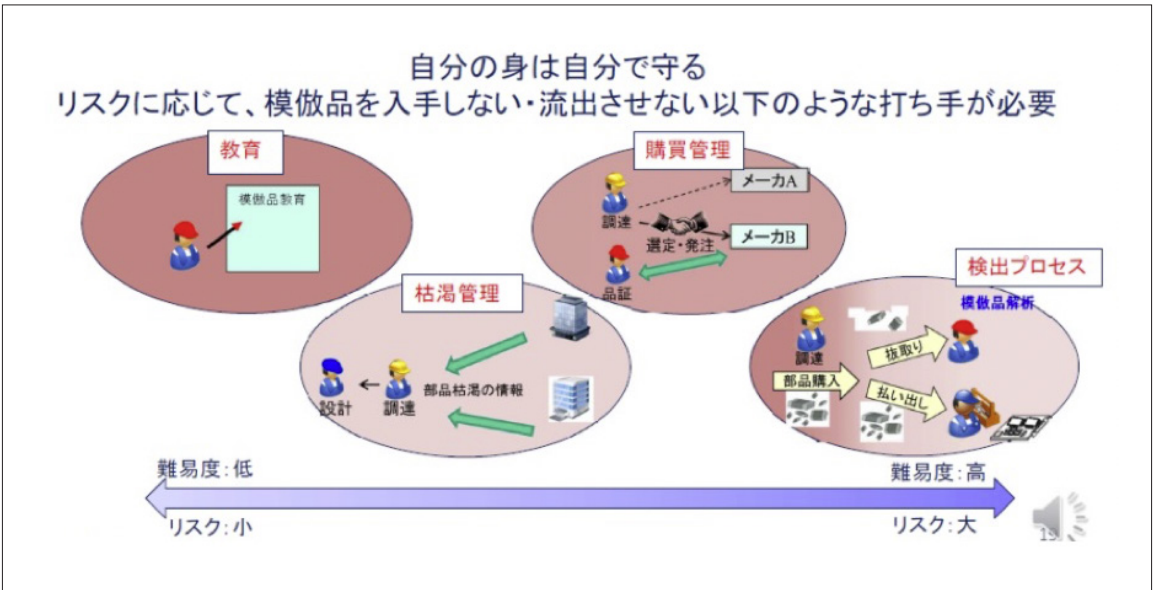
佐藤 SCMH主査 (株式会社 IHI)

(3) 模倣品防止

(濱田 雄介 SCMH WGメンバー
(三菱重工業株式会社))

- ・ サプライチェーンにおける模倣品の拡散を防止するため、組織の役割や置かれた立場

に応じて、模倣品や模倣品が使用された製品を入手してしまうリスクをコントロールするためのベストプラクティスおよび模倣品防止対策の為の繰り返し教育の重要性が紹介された。



模倣品防止のために



濱田 SCMH メンバー (三菱重工業株式会社)

(4) 不適合製品の管理

(梶沼 雅仁 SCMH WGメンバー
 (三菱電機株式会社))

令和4年度SCMH説明会実施後に行ったアンケートで要望の多かった「不適合なアウトプットの管理」に関し、航空、宇宙及び防衛

関連の製品及びサービスのサプライチェーンにおいて留意しておいていただきたい事項を、SCMH3.3項のガイダンスでキー項目として識別される内容を中心にJAQG独自に抽出した対応事例を交えながら参考となる情報が紹介された。

3. キー項目 (1) 不適合品の識別



不適合である可能性のある品目の特定の例

- a. サンプルングでの寸法検査にて不適合を確認
- b. 原因調査及び是正処置を関係者と協議
 - FTA等の原因分析ツールによる原因調査
 - 封じ込め範囲を特定するための作業記録の収集
- c. 是正処置の協議
 - 調査の結果、型摩耗が原因と特定し前回定期型検査以降の製品を封じ込め範囲として特定
 - 対象品の識別と隔離を行い全数検査を実施。不合格品は、不適合処置
- d. 水平展開の実施
 - 同様の製造プロセス製品に対し期限付き全数検査に変更処置

封じ込め範囲が決定するまでの間、不適合の可能性のある品目の即時の物理的識別、文書化及び隔離は必須ではない。

不適合の水平展開内容が決定する前に、不適合疑義品に対し処置することは、費用対効果が低い場合があり、特に量産品の場合には、適切な封じ込めと根本原因分析の開始を引き延ばす可能性がある。これは、顧客及び供給者の費用及びスケジュールに関するリスクをもたらす可能性がある。

© 2023 SJAC-JAQG

17

対応事例の紹介



梶沼 SCMH メンバー (三菱電機株式会社)

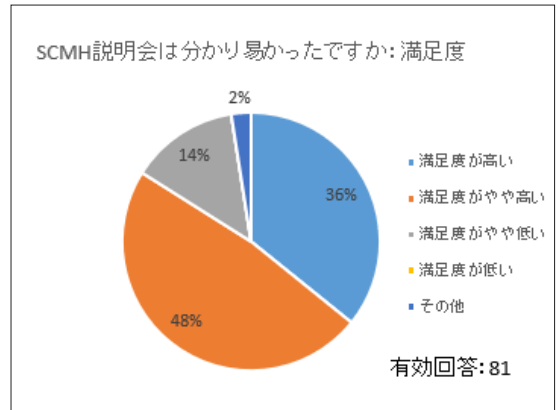
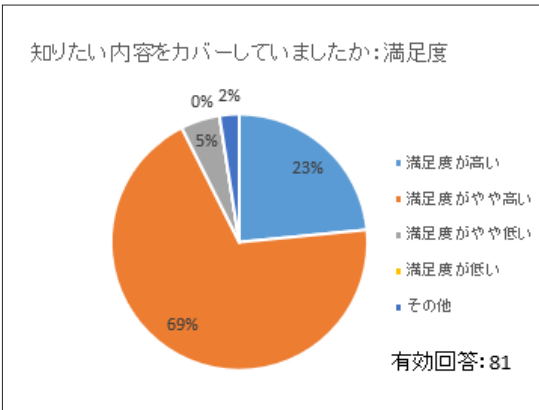
(5) 質疑応答

本説明会では、参加申込時に募集した事前質問に加え、説明会会場での質問及び説明会開催中にネット上で参加者からの質問を受け、説明セッション終了後に回答を行った。質問の内訳は以下の通りである。

- ・事前アンケートでの質問4件、会場での質問1件、オンラインからの質問4件

(6) アンケート結果

説明会後のアンケートでは、“知りたい内容をカバーしていましたか？”の設問に満足度が高い+やや高い”の小計92%、“SCMH説明会は分かり易かったですか？”の設問には84%といずれも高い結果が得られ、本活動が幅広く理解・支持されている様子が伺えた。



4. おわりに

以上、今年度のJAQG SCMH説明会についての内容を紹介した。SCMH説明会は、JAQG活動報告会でのメンバーからの開催要望に応え、6度目の開催となった。また、コロナ禍で行っていたオンライン開催の利便性もメンバーから好評を得たため、対面+オンライン

でのハイブリッド開催とした。対面での質問、オンラインでの質問等、活発な質疑応答を通じて有意義な説明会になったと考える。この他にも頂戴した各種意見は今後のJAQG活動の参考とさせて頂き、メンバー会社の品質向上及びコスト低減への一助となるよう引き続き積極的に活動を推進していく所存である。

[(一社) 日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター (JAQG) 事務局 前部長 前畑 貴芳]